



【ドセタキセル+カルボプラチン+アバスチン療法について】



様

コース目

😊 **お薬の名前と治療のスケジュール** (副作用の状況を考慮して、抗がん剤の影響が強く残っていると考えられる場合は、次の治療開始を延期することがあります。)

薬の名前	作用	めやすの時間	1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1日目
アプレタントカブセル	吐き気止めです	1日1回																						
デキサート注	吐き気止めです	30分																						
グラニセトン注																								
ドセタキセル注	抗がん剤です	1時間																						
カルボプラチン注	抗がん剤です	1時間																						
アバスチン注	抗がん剤です	90分																						

2回目から投与時間が短くなります。

この週はお休みです。

この週はお休みです。

😊 治療による副作用

: 注意が必要な時期

		1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1日目	
自覚症状	過敏症																							
		痒みや顔のほてり、じんましん、脈が速い、息苦しいなどの症状が出た場合はお知らせ下さい。																						
	食欲不振・吐き気																							
		食欲低下や吐き気がすることがあります。食べやすいものを無理なく食べ、水分を摂りましょう。																						
	筋肉痛・関節痛																							
		肩や背中、腰や腕などの筋肉が痛くなったり、関節が痛くなることがあります。																						
	口内炎																							
検査値		口の中が荒れて痛みが出ることがあります。歯磨き、うがいなど丁寧にしっかりと行いましょう。																						
	手足のしびれ																							
		手足のしびれ、感覚が鈍るなどの症状が出ることがあります。																						
	便秘																							
		水分を多めに摂りましょう。続く場合はお薬で調節した方が良いので、お知らせ下さい。																						
	脱毛(頭髪・まつ毛・眉毛など)																							
		髪質が少し変わることもあります。治療後半年程度でまた生えてきますので、心配しすぎないでください。																						
	白血球減少																							
		感染しやすくなりますので、手洗いうがいを心がけましょう。必要に応じて白血球数を上げる注射をすることがあります。発熱時はお知らせ下さい。																						
	赤血球減少(貧血)																							
		貧血の症状(めまい・ふらつき)がでたりします。転倒に注意しましょう。																						
	血小板減少																							
		出血しやすくなって手足に赤い点やあざがでたり、歯ぐきから血が出たりすることがあります。転倒に注意しましょう。																						
	肝機能低下																							
	体がだるい、食欲がでない、皮膚のかゆみ、皮膚や白目が黄色くなるがあります。																							

手や足のむくみ(治療回数が増えると生じることがあります。気になる症状がありましたらお知らせ下さい。)

爪の変化(爪の変色、爪の周囲が赤くなったり痛などの症状がありましたらお知らせ下さい。)

以下の副作用は、起こりやすい時期はわかっていますが、早めの対応が必要な副作用です。気づいたことがあればお知らせください。

- 血圧上昇 ● 出血(鼻血など) ● タンパク尿 ● 胃腸穿孔(下痢や腹痛が続く、激しい腹痛など) ● 傷の治りが遅い
- 血栓・塞栓(足が腫れたり痛む、息苦しい、胸痛、片側のまひ、言葉がうまく出ない、気分が悪い、めまいなど)



* 注射の針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みなどがありましたら、すぐにお知らせください。

* 上の表は治療のスケジュールや副作用が出やすい時期の目安を示したものです。必ずこの通りになるとは限りません。

* それぞれの副作用に対して、必要に応じてお薬を使うこともあります。

* 何か気になる症状が出たり、お聞きになりたいことなどありましたら、気軽に医師・看護師・薬剤師にお尋ねください。

広島市民病院薬剤部